



小林登教授 の講演について……………

- 小林先生のご講演は大変わかりやすく、将来の教育の在り方に対する考えや示唆が与えられる貴重なお話でした。
- 教育と文化という2つの情報、そして、その2つの情報が子どもの発達に及ぼす影響がわかりやすく論じられていました。

会場の声

- 医学のことはあまり詳しくないのですが、小林先生は生物学の角度から就学前教育の問題を説明してくださり、とても意義深かったです。

- 解剖学、生理学の研究も子どもの発達にとって重要であることを認識させられました。

秋田喜代美教授 の講演について……………

- 秋田先生の研究を興味深く聞かせていただき、大変勉強になりました。先生の研究は実用性が高く、

- 中国の幼稚園と小学校の接続の問題に対して、たくさんヒントを与えてくれました。

- 国の事情が異なると教育も大きく変わります。ドイツ、イギリス、台湾、日本などの実例により幼小接続の各国の実情をわかりやすく話してくださり、とても印象に残りました。中国における幼小接続の問題について、実践的なヒントを得られて、大変感謝します。

- 講演は大変わかりやすく、日本の幼小接続の問題についての対応や、効果的な解決方法などについて知ることができました。

- 発表の内容が豊富で興味深く、たくさんヒントが潜んでいました。また、日本の就学前教育の最新情報も知ることができました。

榊原洋一教授 の講演について……………

- 「特別支援教育」という言い方は、とてもいいと思いました。教育の公平性を強調していて、正義が感じられます。また、障害児を一人前の子どもであり、かつ、特別なニーズがあるのだとする考え方に共感します。

○先生の発表のレベルはとても高かったと思います。科学研究の成果を詳しく述べられ、論旨も明確でポイントがよくわかりました。

○発達障害の問題は社会的に注目される課題であり、挑戦していくべき課題でもあります。脳科学の領域から「特別なニーズをもつ子ども」の教育を考えることは、私の視野を広げてくれましたし、とても勉強になりました。また、これらの知識は実践に大変役立つと思います。

朱家雄教授 の講演について……………

○わかりやすい言葉で深い内容を述べられていました。

○幼児の積極性、社会性の発達を促すことで、小学校生活への適応に役立つことがわかりました。

○朱先生の発表に同感です。先生が中国の国と国民のことを深く考え

られ、真剣に悩んでいる姿に敬服しました。しかし、具体的な問題解決方法については、今後検討していかなければいけないと思います。

○先生が指摘された「経済レベルの高いところは、子どもの遊ぶレベルが低い」という矛盾について考えさせられました。

馮曉霞教授 の講演について……………

○深く研究されていて、社会的な意義を感じます。講演は大変素晴らしく、説得力がありました。

○「社会的立場の弱い階層」に焦点を当てた素晴らしい講演でした。ありがとうございます。教育の機会均等を促進するために、まずは幼児期の教育を重視し、「スタートラインから遅れをとらせてはいけない」という観点をもつことには賛成です。

張燕教授 の講演について……………

○張先生の発表に感激しました。自らボランティアとして農民工の子どもたちに就学前教育の実践を行い、そして政府の政策は就学前教育に有利な方向に傾斜すべきという立場から、庶民の就学前教育問題を論じられました。張先生は地道な研究をなされながら、教育実践においては強い情熱を感じました。

○実践もあり、マクロな視点もありました。実践を行い、現実問題と理論を結びつけて示唆に富む発表でした。

王練副教授 の講演について……………

○わかりやすく、データや写真がたくさん提示されていました。就学前教育を直観的に理解するための素材が豊富に提供されました。データをもとに語ってくださっていますので、大変説得力があり、

この調査結果からもいろいろと考えさせられました。

○就学前教育に熱い思いをもち、現実の問題を解決しようとしていて、興味深い発表でした。

周念麗副教授 の講演について……………

○自ら貧しい地域に赴き、調査したことや、この調査結果に関する分析や考え方に深い感銘を受けました。まず、貧困地域の子どもたちへの愛情が感じられました。ちよつと残念なのが時間が短かったことで、もっと具体的な話を聞きたかったです。

○感情をこめてわかりやすく説明していただき、忘れられない講演でした。

○実際の現場で仕事と探索をなされ、その結果を調査分析に、解決策を提示するという、とても実用性の高い発表でした。

郷平園長

の講演について……

○具体例を通して幼児園と小学校の接続のやり方を説明していただき、とてもよい勉強になりました。

○小学校からのフィードバックがあれば、さらによいと思います。

育児公開講座

万鈞教授 の講演と質疑応答について

○私は自分の子どもに食べさせる質と量について悩んでいましたが、万先生の話を聞いて、どうやって子どもが健康的に食べられるかがわかりました。

○「食育」の系統的な知識を教わりました。専門的で話がわかりやすく、実用性がとても高いです。

○ポイントが明確で、言葉遣いにはユーモアがあつて、とてもわかりやすいです。

○「生後初期に栄養過多になると、新陳代謝が正常ではなくなる」と「や、「アブラナ科の野菜が病気を予防すること」などの知識がわかつて、大変勉強になりました。

朱家雄教授 の講演と質疑応答について

○素晴らしいです！ 大変わかりやすい内容で、実用性の高いアドバイスでした。

○「1つの鍵穴には、1つのキー」という理論が大変勉強になりました。周りの人と比べてたり合わせたりせずに、自分の子どもにとって最善なやり方を見つけるのが、親の知恵であると認識させられました。

○先生の講演は大変誠実な内容で、ロジックもしっかりしており、ま

た質問に対する答えにも大満足でした。

神原洋一教授 の質疑応答について

○榊原先生の答えは非常に専門性が高く、医学的知識がたくさん入っていますが、わかりやすく説明してくださるし、実用的なので、私はとても満足しています。

○先生の研究姿勢はとても誠実で、しかも実践的です。

○このシンポジウムに参加する前には、どんな内容になるのかわかりませんが、実際に講演を聞いてみると、素晴らしい内容だったので、来てよかつたと思います。

子ども学について 期待

○子ども学は単なる生物学、心理学から出発する学問でもなければ、教育学から出発するものでもな

い。今回の講演を聞いて、子ども学の多様化を感じました。子ども学を応用して、子育ての親や子どもを支援し、手助けしてほしいです。

○子ども学について新しい発見がありました。それは、子どもの研究は多くの視点から研究することができるといことです。子ども学は心理学、医学、特に脳科学のサポートが必要です。このような研究をますます深化させていきたいと願っています。

○子ども学は今後の子どもに関する研究の主流となっていくでしょう。中国での展開に期待します。

○「子ども学」はサイエンスの面に特化した学問と思っていましたが、こんなに多くの領域とかかわっているとは、知りませんでした。大変面白い学問であり、幼児教育の仕事以外にも多く知らせたいです。

日本 グッド・トイ 展示会



子どもたちの健やかな成長発達には、栄養が不可欠である。その栄養は「食事」からだけでなく、「遊び」からも得られる。子どもは遊びを通じて、心や体の能力を高め、広い世界へと想像の翼を羽ばたかせ、自分自身についても知るようになる。遊びの中で、個性が育まれ、自主性や忍耐力が自然と身に付き、いろいろなことを学んでいく。そして、子どもにとって大切な「遊び」に欠かせないものが、おもちゃである。

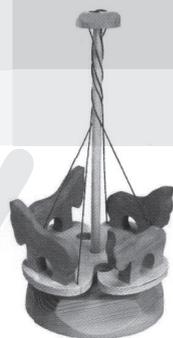
私たち大人は、おもちゃを、感性や想像力、好奇心の育成を手助けしてくれる大切な道具と考え、子どもの成長に合わせ、さらに五感でさまざまな刺激をキャッチする可能性を引き出してくれるおもちゃを選んであげることが必要である。

この展示会は、東京おもちゃ美術館館長、日本グッド・トイ委員会理事長の多田千尋氏の監修のもと、日本で流通するおもちゃの中で、優秀なおもちゃに贈られる「グッド・トイ賞」受賞作品の中から、心や身体の成長に必要な「イマジネーション力」、「自然や科学への好奇心」、「音楽アートな感性」、「運動能力」、「コミュニケーション力」の栄養素を育むことができるものを50数点厳選し、紹介した。

● 2010年11月23日、24日の2日間にわたり、東アジア子ども学交流プログラム会議と合わせて、北京中華女子学院にて、日本グッド・トイ展示会が開かれた。大学の学生や教師を中心に、2日間で延べ1500名ほどの来場者があり、皆が熱心に研究している姿が印象的であった。

会議の前後や、お昼休みなど、会議の合間を利用して、会議に参加した学生、現場教師、大学の先生、幼児をもつ親が、おもちゃ展示スペースに集まって、パネルの説明を読みながら、実際のおもちゃを触って、遊び方を熱心に研究していた。会場アンケートからも見てとれるように、最も印象に残った内容の1つに「グッド・トイ展示会」があった。参加された方々は、展示されているおもちゃのデザイン、発想に感動し、会場では子どもに創造性、芸術性を育むことができるツールとして大きな関心が示された。

● 今回の展示会は2日間という短い期間であったが、日中の学者が大学の学生と、「子どもとおもちゃ」、「子どもの遊びと学び」について考えるひとつのよい機会となった。



GOOD TOY

東アジア子ども学交流プログラムの概要

■開催趣旨：育児・保育・教育に関係する東アジアの大学、教授の相互交換講義を支援し、子ども学の普及と国際化を目指す。その結果、子どもを取り巻く諸問題の解決や環境改善に役立つような学術活動を推進する。

■主催：チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）、華東師範大学

■共催：(株)ベネッセコーポレーション
ベネッセ次世代育成研究所

■後援：中華人民共和国駐日本国大使館、日本子ども学会、日本赤ちゃん学会、異文化比較学会、日中教育交流会議など

■事務局：チャイルド・リサーチ・ネット
(<http://www.crn.or.jp>)

本プログラムは、2007年11月に上海華東師範大学で発足し、長沙、東京、杭州、東京、上海の開催を経て、2010年には、北京で活動を行いました。本書は2010年の報告です。

- [発行日] 2011年3月31日
[発行所] チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）
〒163-0411
東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビルディング 13階
[編集人] 後藤憲子
[編集スタッフ] 劉愛萍、横井理絵、山本和桂子、
桜井玲子、木下編集事務局
[翻訳] 村田久美子、岸多恵（中国語→日本語）
[デザイン] 森一典デザイン事務所、富田淳子

無断転載・複写を禁じます。

Copyright (c) 2011, Child Research Net (CRN) . All Rights Reserved.